

会報 善哉

令和3年4月1日 第52号



関東大震災による地滑りで沢がせき止められて誕生した震生湖

地震の規模の大きさを今日に伝える重要な地質遺産であるとして国の登録記念物に登録された

秦野歴史おこしの会



歴史おこしと新たな学び

秦野市教育委員会

教育長 佐藤 直樹

秦野歴史おこしの会の皆様には、日頃より本市の貴重な歴史・文化を護る諸活動、さらには歴史文化を学ぶ取り組みにご尽力されていること、改めて深く敬意と感謝を申し上げます。

昨年九月に高橋市長より教育長職を拝命し、本市の重要施策となつていく教育水準の改善向上と中学校完全給食の実現そしてコロナ禍への対応含め、教育行政の着実な推進に日々努めているところです。私はこの秦野で教師として育てていただきました。水と緑に育まれた第二の故郷秦野へ恩返しするつもりで、新たな学びの街として秦野の教育が、本市の強みとなるよう『子どもファースト』『市民ファースト』で教育長職を全うしてまいりますので、会の皆様にも引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

さて皆さんもご存知かと思いますが、昨年十一月一日これまで秦野の歴史的遺産を展示してきた桜土手古墳展示館が、はだの歴史博物館としてリニューアルオープンいたしました。はだの歴史博物館では、中世から近代、つまり秦野市で言えば実朝から葉たばこ生産に至るまでの歴史を改めて掘り起こし、歴史のロマンを感じ取る場所として生まれ変わりました。

はだの歴史博物館のオープニングセレモニーで開催されたトークショーでは、秦野ふるさと大使の荻谷俊介さんから、「子どもたちが秦野の良さを感じることで、自信をもって世界に羽ばたくことが出来るようになる」というお話を伺いました。歴史を通して、夢を膨らませ物語を創っていく作業は、人生という旅を豊かなものにしてくれると感じた次第です。

一方教育委員会では、令和三年から新たな教育振興基本計画をスタートさせ、新しい学習指導要領が目指す「主体的対話的な深い学び」の定着を目指し、特に平成十九年から開始した子どもたちが秦野の歴史・文化・自然を学ぶ「はだのつ子アワード」の取り組みを、新たに「ふるさと科」として位置づけ、拡充を図っていく計画としていきます。引き続き地域とともにある学校づくりを推進する中で、歴史おこしの会の皆様や地域の皆様など多くの市民の方々と協働して、秦野の歴史や文化を子どもたちに伝えてまいりたいと考えております。

結びに秦野歴史おこしの会の益々の発展と、皆様のご活躍を心から祈念してあいさつとさせていただきます。

天徳寺の仏像

伊藤仁志

秦野市内には多くの仏像があります
が、現在までに確認されている平安時
代の仏像は、わずかに十一体しかあり
ませんでした。その十一体の内訳は、
蓑毛大日堂の木造五智如来像、聖観音
菩薩立像、阿形、吽形の二王像、太岳
院（今泉）の木造十一面観音菩薩立像、
極楽寺（鶴巻）の木造十一面観音菩薩
立像、東光寺（南矢名）の木造聖観音
菩薩立像です。蓑毛大日堂五智如来像
の内、大日如来坐像が神奈川県指定、
他は、全て秦野市指定の重要文化財に
指定されています。そして、今回、新
たに医王山薬師院天徳寺（文京町）の
木造薬師如来立像が、平安時代後期に
作られた仏像として確認されました。

天徳寺は安土桃山時代の文禄二年
（一五九三年）の創建と伝えられ、江
戸時代の天保十二年（一八四一年）に
原稿が完成した新編相模国風土記稿に
は、『医王山薬師院と号す。金蔵院（龍
門寺）門從。本尊観音』と記されてい
ます。また、江戸時代の曾屋村絵図に
は、曾屋神社の近くに天徳寺持ちの薬
師堂（乳牛薬師堂）が描かれています。



薄井和男氏による木造薬師如来立像の調査

関東大震災で薬師堂が倒壊し、その後、
お堂に祀られていたお薬師様は天徳寺
の本堂に移され、十二年に一度、寅年
に御開帳される秘仏として大切に守ら
れてきました。この木造薬師如来立像
については、仏像研究の大家、西村公
朝氏が寺を訪れた際、「平安時代後期に
作られた仏像」との言葉を残されてい
きました。秘仏のため、正式な調査
は行われていませんでした。

令和元年十一月一日、御住職の意向
で、神奈川県立歴史博物館館長の薄井
和男氏をお招きし、天徳寺の仏像調査
が行われました。薄井氏の調査では、



創建時の御本尊と推定される
木造十一面観音菩薩立像

お薬師様は「像高三尺の一木割剥造で、
多少の地方色を残しつつ、京の仏像作
りをしっかり学んだ仏師による平安時
代後期の作と推定され、本市にとって
重要な作例の一つである」との評価が
されました。現在は、十二年に一度の
寅年の御開帳に加え、毎年九月のお薬
師様の縁日の日にも特別御開帳がされ
ています。

また、本堂に安置されている仏像の
内、新編相模国風土記稿に記されてい
る御本尊と思われる木造十一面観音菩
薩立像についても、「室町時代後期から
桃山時代にかけて作られた優れた仏像
で、お寺の創建時期に作られたものと
推定される」と評価されました。天徳
寺の境内には、江戸時代に盛んだった
観音霊場めぐりを今に伝える、貴重な
石造三十三観音像の内の二十九体も大
切に遺され、静かに時を刻んでいます。

「震生湖」名称由来推察考

横溝 彰（七十三歳）

一九二三年（大正十二年）九月一日発生、の関東大震災に起因する震生湖の命名には、様々な由来が伝えられている。私は今泉上町に生まれ、震生湖にはよく足を運んだ。当時は湖面に立ち枯れた木が何本も顔を出していた。震災百周年を機に、夫々の命名由来を私なりに検証し、皆さんの判断の一助となれば幸いである。

●秦野市以外の方による命名由来

① 寺田寅彦（一八七八～一九三五・



枯れ木が顔を出す震生湖（戦前）

写真提供 秦野市

物理学者・俳人）の命名と流布されている。寺田は随筆『柿の種』に「昨日は急に思ひ立ち、秦野の南方に、関東地震の際の山崩れの為に生じた池「震生湖」といふものを見物及び撮影に行つた。」と記している。訪れたのは昭和五年の九月七日と翌週の十一日である。すでに震生湖という名称が認識されており、寅彦の命名との説には無理がある。詠んだ三句の一つが「山裂けて成しける池や水すまし」である（湖畔の句碑）。

② 山本侘介（一九二四年生まれ日本山岳会員）は、著書『文学碑のある風景』の中で「寺田は実地調査のためここを訪れた。「震生湖」という名も寅彦の命名」と。

③ 今村明恒（一八七〇～一九四八・地震学者）と山崎直方（一八七〇～一九二四・日本近代地理学の父）二人について、宮部直巳氏（地球物理学者で地震研の時に寺田の震生湖に同行）が「名称からの感じでは、今村先生か山崎先生の御命名のように察せられますが、・・・」との記載あり。

④ 閑院宮春仁王（一九〇二～一九八八・皇族・陸軍軍人・県立小田原中学（現小田原高校）卒）は、二年後の大正十四年に栗原光孝氏（後述）の縁により

陸軍の演習の途次、震生湖を観覧。震生湖と呼ばれたとされている。また、秦野市がまとめた『関東大震災体験記』によれば、本町地区のT氏は「何日か過ぎて平沢の山が割れて大きな谷ができていると聞いて見に行つた。閑院宮様が演習に来られ、これを見て地震でできた湖だから震生湖と名付けられた」と語っている。

●南秦野村関係者の命名由来

① 加藤高次郎氏（明治三十五年生まれ・県会議員）は、著書『秦野に生まれて八十年』で「震災から十五日余、聞けば五百Mほど先の谷川がせき止められ大きな池が出来たという。この池は私が十二月の除隊後、地震で出来たのだから「震生湖」と呼んではと小さな立札を建てた。その後誰と言うとなく震生湖という名に定着してしまった。不思議な縁である」と記されている。

② 栗原光孝氏（白笹稻荷神社宮司）だとするのは、近くの栗原友次氏。本人は軍隊に行っていたので詳しくはわからないが、西町と上町の人たちが会を作って活動、中心になっていたのが栗原光孝氏で、震生湖の名前をつけたらしいと語っている。光孝氏は当時南小学校の教師で、「大正十三年頃だったと思うが、湖に名前を付けようという

ことになった。大正にできたから「大正湖」と、地震でできたから「震生湖」という名を考えていき話し合った。結果は「震生湖」がシンセイと言つて語呂も良く縁起も良いので「震生湖」にしようということになった」と語った。

③ 地元上町の五名のグループ

平沢西光寺の住職で高校教師の宮本信義氏は、秦野高校の杉山教諭と小宮豊隆を訪ね、寅彦の句の選定と句碑の揮毫を依頼し、昭和三十年九月一日に現在の句碑が建立された。この宮本先生のメモには「奥様の実家の芦川金太郎氏宅に小泉仲次郎・小泉松五郎・小泉繁蔵・小泉文次郎の四氏が集まつては熱心に震災によつて出来た池を何とか後世の人々に残したいと考え、先ず桜の木を植えようということと池のほとりに植えた。またよい名称をと五人の方がいろいろ考えて、年少の小泉文次郎氏が「震生湖」がよいではないかと提案され、他の四名はそれが誠に良い名称だと話がまとまった。しかし当時のことですから宣伝もされませんでした。この話は、大正十五年頃のことです。」とある。尚、芦川金太郎氏のお宅は栗原光孝氏の白笹稲荷神社の隣です。

●まとめとして

寺田寅彦及び著名な地理・地震学者そ



寺田寅彦の句碑（昭和30年頃）

写真提供 秦野市

して閑院宮様が現地を訪れたことで震生湖が宣伝され注目を浴びた。だが、震生湖という名称は当時の南秦野村有志が震災で出来た池への関心から、何組かのグループの話し合いの中で出てきたものと推定される。加藤高次郎氏の記述も上町のグループの宮本信義氏の記述も具体的であるし、栗原光孝氏の話しも上町の近所であることを勘案すると、栗原氏も上町の五名との話し合いに関連していたと考えられる。いずれにせよ、当時の若い人たちが大変な災害の中で震生湖と名付けて地域の

復興に当たった事実には貴重である。その意味で「震生湖」は、名称自体が文化遺産でもある。尚、南秦野村で名称に絡んだ関係者の家は、一キロ四方の範囲にあった。



参考文献

寺田寅彦『柿の種』昭和十年小山書店
小林惟司『寺田寅彦の生涯』昭和五十二年東京図書
山本侘介『文学碑のある風景』昭和四十四年有峰書店
加藤高次郎『秦野に生まれて八十年』昭和五十七年湘南時事新聞社
秦野市『秦野の自然Ⅲ』—震生湖の自然—昭和六十一年 秦野市『関東大震災体験記』昭和五十七年 宮本信義『震生湖の命名者判明にちなんで』昭和六十一年

箱根神社と北条幻庵

星 秦山

相模地方がどうして尺八が盛んであったか、箱根神社と北条幻庵との関係を書きたいと思います。箱根の山は、古くから神々が座します山として名高い。神社の威光をいただき、多くの武将たちが、その靈驗、冥助を得た。心願成就である。源頼朝も、また北条早雲も尊崇が深かったといわれる。

戦国時代、小田原北条五代の祖として、その礎を築いた北条早雲の相模進出に伴い、東西交通の要衝にある箱根神社に、末子の伊勢菊寿丸（北条幻庵、一四九三年～一五八九年）に就任させ、別当海實の跡を受けて四十世別当になりました。天文年間に別当職を辞して還俗になる。北条一族の最高の禄を有し、一族の重鎮として兄氏継に協力して領国経営にあたり、三代氏康、四代氏政を後見するとともに、尺八や歌、茶を嗜み、北条家第一の文化人として活躍しました。

特に尺八は、家臣たちや各地区の庄屋、名主等に奨励していたようである。箱根神社には、室町時代の永正一六年（一五一九）四月二十八日、早雲が没

する直前に菊寿丸に与えた譲状「伊勢菊寿丸所領注文」が伝存しています。この文書によれば、早雲が菊寿丸に与えた所領の知行領域は現在の小田原市内をはじめ、松田町、秦野市、平塚市、茅ヶ崎市、海老名市、伊勢原市、厚木市、座間市、横浜市等のほか、県外では静岡県三島市、函南町、修善寺町、千葉県茂原市、埼玉県日高市など広範囲に及び、菊寿丸は父早雲から譲られた広大な所領に加え、箱根権現社領や別当所領などの潤沢な経済基盤であったようです。幻庵九十七年間に及ぶ生涯は、まさに小田原北条氏の興亡そのものであったと思います。



箱根神社元宮例大祭

毎年十月二十四日は、箱根神社の元宮例祭、御神火祭が斎行されます。神体山の神山を仰ぎ古式に則り鑽火（きりび）神事が行われます。幽玄で神秘に満ちたこの神事で鑽（き）り出された御神火は、元宮の御神前にお供えされて、午前十一時より箱根元宮の例祭が執り行われます。例大祭後には御神火巡行祭が行われ、御神火は神職に携えられて山を下り箱根神社の御本殿に奉安され、午後から皇室国家の安泰と国民の安寧、世界の平和を祈願して世界平和祈願祭が斎行されます。

この例大祭に二十九年より「相模神仏奉賛会」は虚無僧姿で献楽会に参加しております、駒ヶ岳山頂の元宮での御神火祭は神秘的な儀式で、多くの氏子が見守る中での尺八献奏は、北条幻庵を思い出させると同時に身が引き締まる思いです。祭祀のお練り行で「送り吹き、迎え吹き」、元宮と箱根神社拝殿での献奏と出番が多く、例大祭の引き立て役として充実の一日です。

来年は三十回になります。秦野歴史おこしの会の皆さんも、一生に一度、駒ヶ岳山頂での例大祭を見学されてはどうでしょうか。

はだの歴史博物館の開館

横山 諒人

（秦野市生涯学習課）

桜土手古墳展示館の

リニューアル経緯

平成二年に開館した桜土手古墳展示館は、開館三十年である令和二年十一月一日に総合的歴史博物館「はだの歴史博物館」としてリニューアルオープンしました。

展示館は、古墳時代後期の群集墳である桜土手古墳群が所在する地に日産車体株式会社の工場建設に伴う保存協議の中で建設が協議されました。その後の秦野テクノパーク構想に基づく土地区画整理事業において、六基の保存古墳が保存される公園と考古専門の博物館が整備されました。この館の特徴は、一階常設展示において古墳を象った展示台に出土遺物やジオラマを展示し、自由な動線で観ることができ、映像展示を複数取り入れていました。また、地下のミュージアムプロムナード

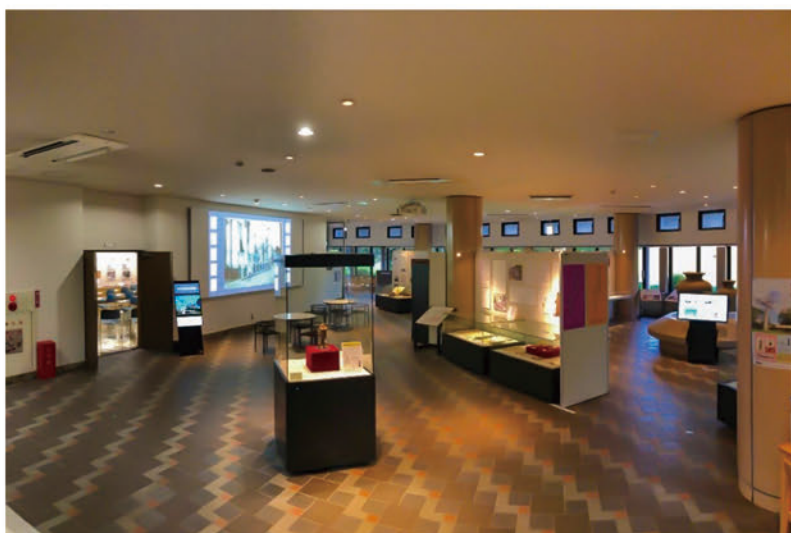
では、原始古代の墓制というパネル展示のほか、開館一周年で設置された秦野の考古資料が展示され、以後、多くの特別展の会場としても利用されました。

開館後、行政改革や公共施設の再配置により桜土手古墳展示館の中に文化財行政主管課の事務所が移動し、市史編さん主管課についても組織統合、移転が行われた結果、考古専門の博物館が古文書や民具等の資料を所蔵するようになりました。

このような状況を鑑み、市総合計画の中で総合的な歴史資料館を目指す取り組みを行い、この度、無事に開館することができました。

はだの歴史博物館のみどころ

はだの歴史博物館の展示は、空間的な制約があることから、「桜土手古墳群と古代人のいのり」「奈良・平安時代から江戸時代の秦野」「葉タバコ耕作と秦野」「秦野の近代化と発展」の四テーマを設定し、常設展示としています。また、多くの資料を陳列できないことから、映像資料を多用しています。館内には、一七〇インチスクリーンに秦野の歴史や文化についての写真や動画を



大きく変わった常設展示

プロジェクトから投影しているほか、タッチパネルによる映像や写真の紹介も行っています。

コンテンツは職員が作っているため、お見せできる数は少ないですが、順次増やし、多くの資料を調べることができるよう取り組んでいきます。

二つの企画展示室では、年間複数の企画展示を行いますので、楽しみにお待ちください。その他にも多くの事業を開催していきますので、既にご来館頂いた方もこれからの方も是非、当館にお越しください。

酒匂川の氾濫から人々を守った

文命堤

小沢恵一

令和元年度秦野歴史おこしの会定期講演会で、当時秦野曾屋高校教諭の関口康弘様のお話の中で、酒匂川は、かつて暴れ川と呼ばれるほど氾濫を繰り返しては足柄平野に甚大な被害をもたらしたそうです。講演の詳細は、会報第四十九号で事務局の三溝様が書かれていますので見てください。

南足柄市は、二〇一六年ジオパークに認定され、この文命堤も脚光を浴び説明板が整備されていました。この地区足柄平野（南足柄市・開成町・松田町・小田原市）は、江戸時代初期には小田原藩（前期大久保氏の時代）による治水事業が行われ、岩流瀬（がらせ）と大口に土手が築かれて水田地帯で小田原藩の財力に貢献していました。

しかし、その後も酒匂川は氾濫を繰り返しました。特に一七〇七年の富士山の宝永大噴火では、酒匂川に流入した大量の火山灰が河床に堆積したため水位が上昇し、前大久保時代の堤が流され、その後数年間にわたり足柄平野

に大洪水をもたらしました。

これらの大災害から復興するため、この地域は幕府の直轄地となり、第八代將軍徳川吉宗による享保の改革によって大規模な治水事業が進められることになりました。南町奉行大岡越前守の命令で、川崎宿の名主田中丘隅（きゆうぐ）の指揮によって造られた三つの堤防により自然の崖（釜淵と千貫淵）に流れをぶつけ、水流を弱めて流れを変え、耕作地を造る、これが日本の治水事業上

で有名な「文命堤」です。

南足柄市の説明看板を見ながら、三つの堤防を大口橋付近から見て歩いて、先人の知恵とそのスケールの大きさに驚嘆するほどです。隣接の福沢神社には、これら江戸時代からの工事に関する石碑、石仏等多くあり、近隣に桜、アジサイ、タチアオイ、酔芙蓉、彼岸花などの名所があります。花の季節に訪れてはいかがでしょうか。



激流を食い止めた千貫岩

◆表紙の題字

「善哉（よいかな・よきかな）」

揮毫 蓑毛山寶蓮寺

三十三世住職 東島光明師

『寶蓮寺真名縁起』によれば、聖武天皇の命を受けた行基と良弁が、伊勢の皇大神宮に赴き大仏造立の願いが叶った時、歓喜して舞い、歌い、言ったことばが「善哉、善哉、時哉、時哉」である。・会報第三号から要約

◆令和3年度総会・講演会 延期のお知らせ◆

令和3年5月に開催を予定していた総会並びに講演会は、新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、9月(予定)に延期することと致しました。
詳細は、次号「善哉」でお知らせ致します。

理事長 小泉 孝

★「善哉」への投稿依頼

旅先で出会った文化財の思い出、独自の研究成果などがありましたら、お気軽にご投稿ください。

事務局

秦野市羽根七〇七 小泉 孝 宅
電話 〇四六三―七五―〇〇六七